



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

93.6.15 No.3811

一新組合結成される

米子で革マル支配から決別!

開始された反乱!

JR総連内部から、いよいよ公然たる反乱が開始された。

六月十二日、JR総連西労米子地本で、旧動労グループが革マル支配から決別し、新組合「JR西日本米子地方労働組合」を結成した。この新組合には、百名を超す組合員が結集しており、これは、JR総連米子地本の組織人員の約四割に当たる。

また、十二日の新組合結成大会に先立つ四日には、浜田支部・木次支部・出雲支部の三支部が結成をもちとっており、「私たちはJR西労から勇気と確信をもって決別した」とする「結成声明」があげられた。

この新組合結成は、この間の長年にわたる革マル支配への怒りが、この間の動乗改悪阻止闘争のあり方を巡って一挙に吹

間近に迫ったJR総連崩壊の日!

JR総連の崩壊の日が間近まで迫っている。東海での革マル排除の動きは、JR総連と当局との陰湿な告訴合戦にまで発展し、争議行為中の職場への立ち入りを巡って、当局がJR総連組合員を「暴行・不法侵入・窃盗」の容疑で告訴し、JR総連組合員宅数十箇所到家宅捜索が行われるまで至っている。この職場排除も元々は、動労千葉や国労のスト破りのためにJR総連・革マル自らが要求したこと

き出したものである。松崎は、東日本では率先して動乗改悪を認めながら、西日本・東海から革マル排除・JR総連分裂の動きが始まると、東日本のスケープゴートとするためにのみ、効率化全面協力の方針を一転させ、西日本・東海で「動乗改悪反対」と称する「スト」を始めたのである。この「スト」の

実際の目的が、動乗改悪を阻止することなどは全く眼中になく、「東日本でも、もし革マルを切り捨てたらこうなるぞ」という松崎・革マルの自己保身のためにのみ設定された「闘い」ならざるベテんに他ならないことは誰の目にも明らかであった。もう我慢がならない、という怒りが噴出するのは当然のことである。

だ。まさに自業自得と言う他はない。東日本でも、危機感にかられた松崎は、旧鉄労グループへの嵐のような統制処分の乱発を始めている。明らかに、東日本においてもJR総連崩壊の日が迫っている。

米子における新組合結成が、全国に伏在する革マル・松崎支配への不満と怒りに火をつけることは明らかだ。今こそ闘う動労の再建のために総決起しよう。

またも新型自動給油器で不祥事!

解体してしまつた

安全管理能力!

この間、建築限界を支援していることが発覚して大きな問題となつている「新型自動給油器」の導入で、新たな問題が発生している。六〇Nレールに設置されてきた箇所等、建築限界内に納まつていた箇所が今度は、給油器が線路を短絡してしまい、五〇分も列車をストップさせてしまふ事故が発生したのである。

調査の結果は、取り付け金具が長すぎて線路に接触してしまつたことによるものであったといふのだ。千葉支社は、またもや一斉に取り外し、六月一日から二日にかけて、取り付け金具を短く切つて取り付け直す、としていたが、何故かこの作業も予定どおりにはうまくいかず、現在取り外したままの状態となつている。

この自動給油器導入をめぐる不祥事や、7月ダイヤ改の提案資

料の労働時間等が数十箇所におつたつて間違つている(それも組合から再度チェックするよう指摘し、訂正してきたものが更に数十箇所間違つていた!)という事態、クレーンのワイヤーが切れて車軸が転落するという考えられない事故等が示しているものは、組織としての業務遂行能力や安全管理能力、チェック機能が解体してしまつているとしか考えられない事態である。

これは、一方で効率化だけにつ走り、他方ではJR総連と結託して、動労千葉や国労潰しにのみ憂身をやつし、安全のことなど歯牙にもかけなかつたJR六年間の歪みきつた経営姿勢の必然的結果だ。根は深いと言わざるを得ない。こと安全について、このようなことが多発すれば、恐るべき結果を招来させかねない。

この自動給油器導入をめぐる不祥事や、7月ダイヤ改の提案資

反合・運転保安確立! 反戦・反核を担う労働運動を!

夏季手当(提案)について・東日本旅客

一、支給月数 2・6ヶ月

二、支給日 6月30日以降

準備でき次第